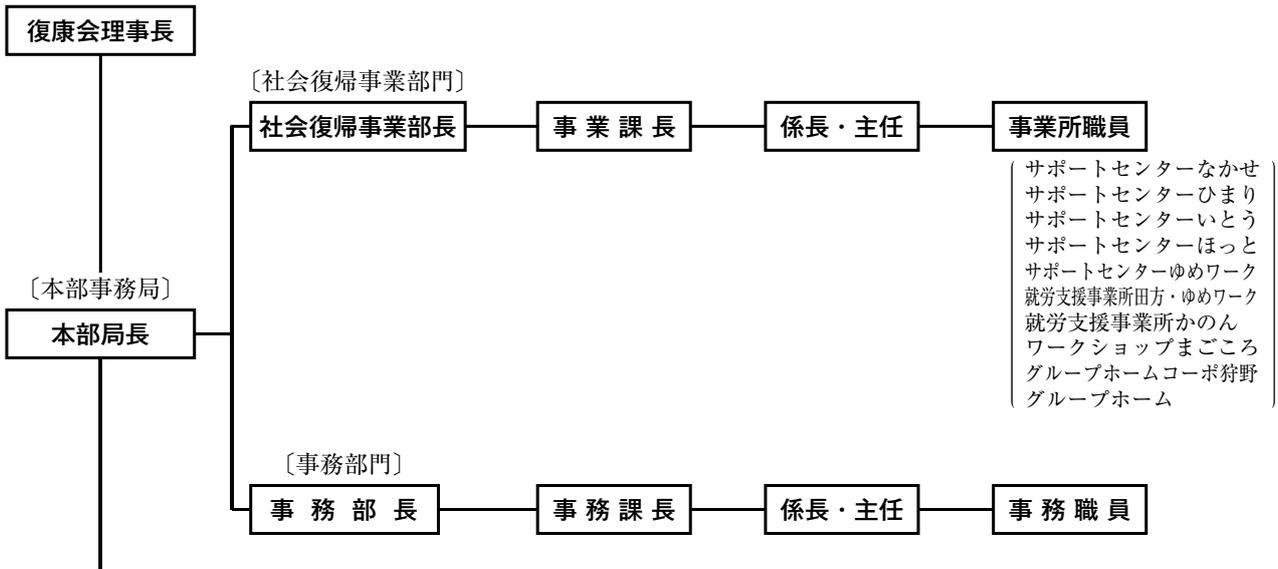


VIII 社会復帰事業部

1 組織図



(会議・委員会)

管理運営会議	本部事務局連絡会議	社会復帰代表者会議	感染対策会議	苦情解決委員会	事故対応委員会
はまゆう寮グループホームケア会議	カーサ岡の宮グループホームケア会議	ふじみ・ふじみIIグループホームケア会議			
市町運営活動報告会	ゆめワーク運営協議会	法令順守委員会	虐待防止委員会	相談支援専門員連絡会議	

2 職員配置 (令和2年4月30日付)

			管理職員	監督職員	指導職員	職員	合計	資格者
相談支援事業 サポートセンターほっと	理事長 石田多嘉子	事務局長 遠藤 収	事業部長 牛島聖美	施設長 長谷川真美	社会復帰施設 主任 1名	2	4	精神保健福祉士 常勤4
相談支援事業 サポートセンターなかせ				施設長 鈴木伸二	社会復帰施設 主任 1名	6	8	精神保健福祉士 常勤5 非常勤1
相談支援事業 サポートセンターひまり					社会復帰施設主 任(施設長) 1名 社会復帰施設 主任 1名	1	3	精神保健福祉士 常勤3
相談支援事業・地域活動支援センター サポートセンターいとう					社会復帰施設主 任(施設長) 1名	4	5	精神保健福祉士 常勤3
相談支援事業・地域活動支援センター サポートセンターゆめワーク				施設長 青木大輔	社会復帰施設 主任 1名	4		精神保健福祉士 常勤3
就労継続B型 就労支援事業所 田方・ゆめワーク					社会復帰施設 主任 1名	6	13	精神保健福祉士 常勤1
就労継続B型 就労支援事業所かのん				施設長 杉山智子	社会復帰施設 主任 2名	7	10	精神保健福祉士 常勤2 非常勤1
就労継続B型 ワークショップまごころ				施設長 勝又美智子		7	8	精神保健福祉士 常勤1 看護師 非常勤1
グループホーム(介護サービス包括型) コーポ狩野					社会復帰施設係 長(施設長) 1名	6	7	精神保健福祉士 常勤2 准看護師 非常勤1
グループホーム (介護サービス包括型) はまゆう寮 カーサ岡の宮 (外部サービス利用型) ふじみ ふじみII						5	5	精神保健福祉士 非常勤1 看護師 非常勤1
本部(事務部門)		事務部長 伊藤信夫	事務課長 主濱博江 芹澤智憲	事務係長 1名	事務主任 2名	5	12	精神保健福祉士 常勤1
人 数	1	1	2	7	2	11	53	75 (計77名)

3 各事業所の運営報告

(1) グループホーム

グループホーム コーポ狩野（定員20名）

令和元年度はサテライトを開所し、定員を18名から20名とした。サテライト利用者1名、新規入所者1名、退所者は精神症状の再燃による入院と身体疾患による転院が各1名となっている。他の事業所も同様であろうが、令和元年度は自然災害による命・生活への影響を強く感じる年となった。台風・強風、河川の氾濫、インフルエンザや今もお猛威を揮うコロナウイルスにより日常生活への制限は大きく、入居者の活動は著しく阻害された。また、地域活動は町内清掃や祭り等の地域行事には参加しているものの、活発な交流を図るまでには至らず、日頃からの顔の見えるつながりづくりは今後も必要である。入所に関する相談は精神科病院に長期入院している方の問い合わせが多くなっている。単身生活や家族との同居が叶わないケースが多く見られ、個々に抱える事情を理解し、関係を丁寧な育み、安心して利用していただける運営が必要である。今後もグループホームが地域に受け入れられ、利用者の夢や暮らしが実現できるよう、一人ひとりに向きあう支援をしていく。

	利用状況				日中活動				
	入所者数	新規入所者数	入所者平均年齢(歳)	退所者数	デイ・ナイトケア	就労支援事業所	デイケアショート	作業療法	就労
H29年	13	3	54.5	4	3	3	1	6	0
H30年	17	5	55.6	1	3	4	5	5	0
R1年	16	1	56.6	2	3	3	6	4	0

令和2年度目標

1. 利用者一人ひとりの主体性・個別性に配慮した支援を実施する
2. 地域交流の場を活用し顔の見える関係をつくることで、地域の精神保健福祉に対する理解を図る

グループホーム ふじみ（定員11名）・ふじみⅡ（定員5名）

令和元年度は入居者の高齢による退去が1名、他施設への移行が3名、単身生活への移行が1名。体験利用3名のうち、来年度の新規入所が2名決定している。利用者の高齢化、障害の重度化に伴い、受け入れ対象者の変化もあるため、現状の支援体制での限界も感じている。

グループホーム カーサ岡の宮（定員10名）

令和元年度の新規利用者はなく6名が生活しており、日常生活において健康・金銭・精神面での支援に要する時間が年々増加している。地域の防災訓練や町内清掃も毎年参加し地域住民との交流を図っているが、高齢化により年々参加率は下がっている。利用者のエンパワメントを奪う事がないような関わりを心がけ、次年度は医療機関や日中活動先とも協力しながら新規受け入れを行っていきたい。

グループホーム はまゆう寮（定員9名）

令和元年度は1名の新規入所があった。利用者それぞれが生活リズムを意識し、日中活動の継続やステップアップを目標に生活している。今年度は台風時の避難生活や新型コロナウイルスによる生活の制限など自然災害等による環境変化の大きい年であり、居住の場の課題が見えた年でもあった。

施設名	人数 (定員)	出身市町											日中活動					
		富士	沼津	伊東	裾野	富士宮	三島	熱海	御殿場	西伊豆	静岡	湯河原	伊豆	DC	就労	就労支援施設	OT	その他
ふじみ	8(11)	6				2								6	2			
ふじみⅡ	5(5)	5												3	2			
カーサ岡の宮	6(10)		3				1		1				1	5		1		
はまゆう寮	8(9)		2	1	2		2	1						1	1	5		1
合計	27(35)	11	5	1	2	2	3	1	1				1	15	5	6	0	1

※日中活動場所が複数ある場合には、活動日数の多い場所を選択している。(R2.3.31現在)

(2) 就労支援事業所かのん

①動 向

当事業所は平成20年5月1日、就労継続支援B型の事業所として開所し、12年目を迎えた。前年度就職者数も多く平均利用者数が減少してきたことから、今年度4月に定員数を30名→20名へ変更。今年は年度通じて新規登録者4名、終了者6名と利用者の変動が少なく、落ち着いて作業内容の拡充や利用者の個別支援に力を入れることの出来る1年となった。職員体制としては前年度末に非常勤職員1名が退職、4月から常勤職員1名（グループホームとの兼務）が加わり、変わらず11名となっている。

②令和元年度目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 1. 利用者のストレスを意識した個別就労支援の強化 | ○ |
| 2. 職員間の連携を高め、共に助け合いながら、心にゆとりを持てる職場環境をつくる | ○ |

③実 績

今年度は職員一人一人が「目標管理シート」を用い、上記目標達成のために個々に出来ることを考え、事業所全体としても達成に必要な過程をその都度スタッフミーティングで検討・共有した。

各作業別でみると、「内職」では作業受注先や量が多くなった為、作業の進行具合や納期などの管理体制を構築。利用者数の多い部門でもあり、利用者個々に合った作業内容と環境を整えることにも注力した。「軽食・喫茶花のん」では10月に価格改訂を行い、各メニュー50円程の値上げを行った。そのためさらにお客様に満足いただけるサービスの質の向上に努めた。「コーヒーショップやすらぎ」ではメロンソーダなど新メニュー開発や、おにぎりの具のバリエーションを広げた。今年度大きく変わったのは、沼津中央病院から開所当初より委託を受けている「洗濯たたみ」の作業が7月で終了、8月から「病院清掃」へ変更になったことである。新たな作業導入にあたり、利用者の新たな一面を発見する事が出来、職員と利用者で作業内容を作り上げていく楽しさも体感できた。そして、今年も7月に各作業部門で工賃時給額を上げることが出来たことは、利用者・職員が共に協力し合い各作業へ真摯に向かった結果だと思っている。

就労支援の動きとしては、2名が一般就労へ挑戦するが長く定着する事が出来ず、職場定着支援の難しさを実感した。施設外就労（市内老人施設の清掃）では年度末に新型コロナウイルス感染拡大のため一時休止となったが、落ち着き次第再開していく予定である。相談は、就労に関する事のみならず、人間関係・病状・経済的な事等含めると月150～200件程あり、利用者の地域生活を支える役割も果たせていると思われる。

利用状況（平成31年4月～令和2年3月）

		H29年度	H30年度	R1年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月末登録者数	男	31	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	29	29	29	29
	女	24	25	23	25	25	25	24	24	24	24	23	23	23	23	23
	計	55	54	52	54	55	55	54	54	54	54	53	52	52	52	52
開所日数		278	279	277	24	23	24	25	22	22	23	23	23	22	22	24
利用実人数		64	68	58	49	51	51	50	51	51	54	51	50	50	50	50
利用延べ人数		6,268	5,605	5,948	494	507	553	566	476	474	506	490	502	449	422	509
1日平均利用者		22.5	20.1	21.5	20.6	22.0	23.0	22.6	21.6	21.5	22.0	21.3	21.8	20.4	19.2	21.2

④総 括

今年度、職員が個々に利用者への声掛け・職員間の声掛けを増やすことを意識し取り組んだ。それが利用者数の安定や相談件数の多さに表れていると感じる。次年度も利用者が安心して通所し、生活の質の向上と次へのステップを目指せる場となるよう、職員が連携し利用者の希望を踏まえた丁寧な関わりを心がけたい。

⑤令和2年度目標

- | | |
|---|------------------------|
| 1. 利用者が安心して通所し、自身の強みを生かした生活・就労が出来る支援に取り組む | 3. 仕事の効率化と協働を目指し残業を減らす |
| 2. 各職員のスキルと責任感の向上 | |

(3) ワークショップまごころ

①動 向

平成21年4月1日、NPO法人こころの会より「小規模作業所ワークショップまごころ」の運営を引き継ぎ、開所して11年目を迎えた。平成30年度に開所した「従たる事業所」2階の内職スペースの運営も軌道に乗り、利用者のニーズに即した環境でのサービスを提案出来るようになった。

②令和元年度目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 1. 職員間の連携を図り、一人一人の利用者の目標に寄り添った支援を行う。 | ○ |
| 2. 消費税増税にスムーズに対応し、店舗においてはキャッシュレス化に備える。 | △ |

③実 績

1) 内職・農業（主たる事業所）

農作業は、平成30年度に続き三島市主催の農福連携事業による農業塾に参加し、専門的指導を受けることが出来た。獣害により思うように収穫に結びつかず、対策として電気柵を改めて整備した。

内職作業については作業種目が増え、利用者のニーズに応じた作業を提案することが出来た。定着する利用者が多く、徐々に利用日数を増やす傾向にもある。

2) クリーム・ド・クオーレ（従たる事業所）

平成30年度より開所した2階内職スペースも軌道に乗り、利用者に安定した作業提供を行うことが出来た。自身のペースで来所出来るというメリットの一方、利用の安定しないケースも多い。

プリン・ジェラート製造販売については、職員間の協力もあり消費税増税にスムーズに対応できた。キャッシュレス導入に至らず、来店者からの要望もあることから引き続き導入を模索する。

利用状況（平成31年4月～令和2年3月）

		H29年度	H30年度	R1年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月末登録者数	男	20	18	17	16	17	16	17	17	17	17	18	17	17	17	17
	女	23	22	21	21	21	22	21	20	20	21	21	21	21	22	22
	計	43	40	38	37	38	38	38	37	37	38	39	38	38	39	39
開 所 日 数		308	293	290	25	24	25	26	23	23	25	26	23	22	23	25
利 用 実 人 数		37	37	38	31	32	32	33	31	30	31	31	31	31	29	26
利 用 延 べ 人 数		4,662	4,612	4,719	418	416	431	449	374	374	390	396	395	366	343	367
1日平均利用者		15.1	15.8	16.3	16.7	17.3	17.2	17.3	16.3	16.3	15.6	15.2	17.2	16.6	14.9	14.7

3) 職場定着支援

令和元年度は3名が障害者枠の就労に繋がった。いずれの企業も障害者雇用経験があり、就職当初の躓きにも動じることなく対応くださり継続就労している。今後も状況に応じ支援介入することとしている。

④総 括

「主たる事業所」の利用者が増え安定した運営を維持することが出来ている。職員間の情報共有が課題となり、作業開始前に時間を設けたことでケースに対する共通認識へ繋がった。「従たる事業所」では、内職作業を併用利用する中で厨房内作業者が減少するという現象が生まれている。生産活動の軸は厨房作業となるため、利用者の希望と適性を鑑みながら、厨房作業の安定を図っていきたい。

職員の入れ替わりがあるため、引継ぎ及び連携を密に行い、利用者へ安定した支援を提供できるようにしたい。

令和2年度目標

- | |
|---|
| 1. 職員間の業務の引継ぎ及び連携を丁寧に行い、利用者への安定した支援を行う。 |
| 2. 利用者の希望と適性をみながら厨房作業の工夫と充実を図る。 |

(4) 就労支援事業所 田方・ゆめワーク

①動 向

近年、伊豆の国市及び伊豆市内に新しい就労支援事業所が急増。その影響もあってか新規希望者は少なく、一日平均利用者数は前年度より約3名減少し事業所報酬も大幅に減額となった。また、農作業で収穫した野菜を販売する等試みたがコストに見合う収益は得られず、目標とした工賃アップには至らなかった。

一方、各作業工程を細分化することで、利用者の障害特性に配慮した働きやすい環境整備に努めることができた。

②令和元年度目標及び評価

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. 利用者一人一人の障害特性を理解し、働きやすい環境整備に努める。 | ○ |
| 2. 各作業においてコスト削減及び収益増を図り、工賃アップを目指す。 | △ |

③実 績

1) パンの製造・販売

伊豆の国市及び伊豆市を中心とした公共施設等における配達や販売、地元イベント等における出店は定着し、利用者への作業量確保と売り上げの安定を図る事ができた。

2) 調理・飲料販売

利用希望者が少なく、作業としては週1回昼食づくりを行う程度に縮小した。

3) 内職作業

引き続き、地元の企業よりタオルたたみ、菓子箱折り、トイレ紙包装といった比較的簡単な作業を受注したことで、利用者への作業提供ができた。

4) 農作業

地元の「まごころ市場」に加入し店頭販売したが、コストに見合う収益は得られず、またブランド確立とまでは至らなかった。

5) 施設外就労

地元、(株)志太 中伊豆ワイナリー様の協力を頂き、グループでの施設外就労として、ぶどうの収穫や草取り作業などを行った。体力が必要な外作業の為、参加希望者が増えず高齢化しているのが課題。

利用状況（平成31年4月～令和2年3月）

	H29年度	H30年度	R1年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月末契約者数	31	33	25	29	28	29	27	25	25	26	27	26	26	25	25
開所日数	261	253	247	20	21	21	22	20	19	22	22	21	20	18	21
利用実人数	36	35	33	25	24	27	26	22	21	24	26	25	22	22	21
利用延べ人数	4,013	4,317	3,453	301	300	330	333	222	236	285	318	304	276	244	304
1日平均利用者数	15.4	17.1	14.0	15.1	14.3	15.7	15.1	11.1	12.4	13.0	14.5	14.5	13.8	13.6	14.5

④総 括

近年、近隣に同様事業所が増えたこともあり、利用者増は難しい状況。一方で地域からは今まで以上に当事業所に対しては、一般就労やA型事業所利用が難しい支援度の高い方の受け入れを期待されている。当事業所は改めて精神障害者の方の受け入れに力を入れるべく、障害特性を理解した上で個別対応ができるように作業内容や工程を工夫することに努め、地域のニーズに応えられるよう今後も真摯に取り組んでいきたい。

⑤令和2年度目標

- | |
|--|
| 1. コスト削減及び収益増を意識しながら取り組み、安定した工賃支給を目指す。 |
| 2. 作業工程を細分化し、より多くの利用者が作業参加できる体制を築く。 |

(5) サポートセンターゆめワーク

①動 向

令和元年度も継続して伊豆の国市、伊豆市から委託を受け「相談支援事業」と「地域活動支援センター事業」を行った。

また、福祉サービス利用者に対するサービス等利用計画の作成、精神科病院に入院中の方を地域へと退院支援する地域移行支援にも積極的に取り組んでいる。

②令和元年度目標及び評価

- | | |
|---|---|
| 1. ピア活動やボランティア育成、地域との連携強化に取り組む。 | ○ |
| 2. 当事者の方々の希望に沿った計画相談の作成や個別支援、地域支援に取り組む。 | △ |

③実 績

<相談支援事業>

センターへの相談は電話・来所・訪問・サテライト相談会等を通して対応した。今年度は健康・医療に関する相談が多く、精神的な病気だけでなく身体的な健康についても、日々の相談支援の中で課題になってくるものと考えられる。

計画相談は引き続き伊豆の国市、伊豆市の福祉サービス利用者に対して行い、対象者も100名超と年々増加しており、より関係機関との連携を密にしつつ、適正な調整能力が求められる。

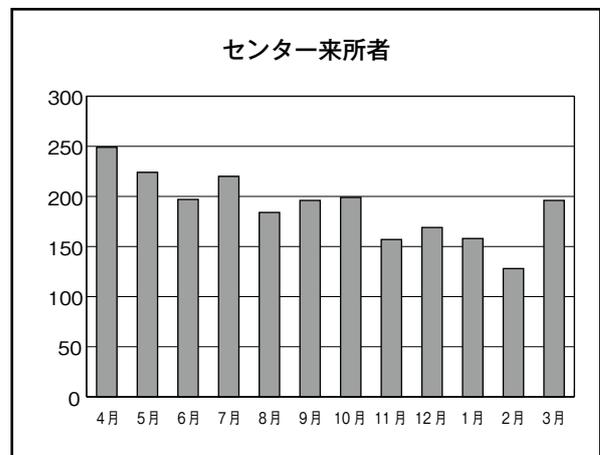
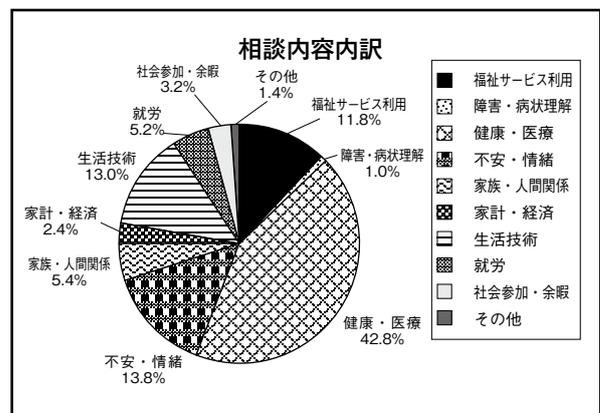
地域移行支援では1ケースを担当し、年度内に退院ができた。退院支援にあたり、地域の社会資源不足、障害者理解への不十分さを改めて認識させられた。

自立支援協議会では伊豆の国市、伊豆市のそれぞれの協議会の運営に協議委員、専門部会員、事務局等として携わり、地域における障害者支援、啓もう活動に貢献している。

<地域活動支援センター事業>

憩いの場の利用は、毎月行っているサテライトのぷちゆめワークも含めて活動した。法人内他事業所とも連携し、ピアスタッフと協働した活動や憩いの場作りに努めた。

サテライトにおいては一部、ボランティア団体と協働で活動した。長く参加していた利用者が新しい活動場所にステップアップしたことや地域資源も増えたことで、今年度で終了の予定。



④総 括

事業所の立地上、利用者が気軽に来所できないことから、サテライト相談を有効に使いながら展開した。増え続ける一方の計画相談には、相談支援専門員2名をそれぞれの市担当にすることで効率化を図り対応。また、自立支援協議会を通じ、地域の他事業所の方々と顔の見える連携ができるようになり、支援体制の強化に繋がった。

⑤令和2年度目標

- | |
|---|
| 1. 当事者のニーズを汲み取りアセスメントや計画相談に反映させ、個別支援の充実を図る。 |
| 2. 地域の自立支援協議会活動に参加し、地域づくり、地域移行支援に努める。 |

(6) サポートセンターなかせ・三島分室・長泉分室

①動 向

相談支援事業：(なかせ) 沼津市・裾野市・函南町
(三島分室) 三島市
(長泉分室) 長泉町

令和元年度も継続して上記市町からの委託をうけ「相談支援事業」を行った。沼津市と長泉町から委託を受けている「障害支援区分認定調査」、なかせと三島分室においては「計画相談支援」も前年度同様に行った。

②令和元年度目標及び評価

1. ピアサポーター雇用における体制整備、ピアサポーターとの協働	○
2. 精神科医療機関との連携強化、地域移行の促進	○
3. 求められるニーズへの迅速な対応	△

③実 績

(相談支援・計画相談)

令和元年度も一般相談の対応が相次いだ。多問題を抱える方も多く、疾病や障害による課題のみを注視して支援しても本人のニーズの充足には至らなかった。また、本人だけではなく家族も問題を抱えていることが多くそれらの対応にも苦慮し、そのため行政や医療機関などとの連携も不可欠であった。

計画相談の依頼は就労支援事業所等の新規開所が近隣で複数あり、新規や変更計画の対応が増加した。また、報酬改定によりモニタリングの頻度が増え、あわせて訪問やサービス担当者会議の回数も増加傾向であった。一方、介護分野に移行した方、就職が決まった方、病状が安定した方、サービスを導入したものの本人のニーズと合わなかった方などがサービス不要となり、計画相談の終了もあり、計画数は沼津市で約90件、三島市で約120件だった。計画相談終了後も個々の事情や必要性を鑑みて相談支援が継続しているケースは多い。

福祉サービス利用希望でかかわりが始まることが多いが、サービス利用のみにならないように気を配り、本人ニーズが捉えられるよう支援を行っていききたい。

また、三島分室では平成23年度の開所から徐々に一般相談や計画相談の利用者数が増加し、地域で担う役割も増えてきたため、令和元年度より一事業所として運営するための業務整理に取り組んだ。

ピアサポート連絡会の事務局も昨年度に引き続き担当し、他地域の当事者グループとの交流会や沼津中央病院でのフリートークの会へ参加した。今年度はかねてより法人として取り組んでいたピアサポーター雇用の準備を具体化し、7月にはピアスタッフ2名の正式な雇用に至った。ピアスタッフの働く環境の整備について、ピアスタッフ自身と法人内関係部署で話し合いを重ね、ピアスタッフが力を発揮する協働や個別支援への参加の体制づくりを行った。

(自立支援協議会)

沼津市と三島市と長泉町の運営部会構成員として平成29年度から引き続き参加。また、他の専門部会やプロジェクトチームについても担当し運営に協力した。

④総 括

求められるニーズには迅速に対応をしてきたが、年々利用者のニーズは多様化・複雑化してきているため、今後も適宜対応をするためには個々の研鑽とともに分野を越えて各支援機関等との連携が一層必要になる。また、ピアスタッフの雇用から法人内での意識変化や気づきは増えているが、実際に個別支援に共に携わっていく協働までは十分に進められなかった。今年度はピアスタッフとの協働を個別支援に活かしていきたい。

⑤令和2年度目標

1. 計画相談も含めた個別の相談支援における個々のスキルアップとそのプロセスの具体化
2. ピアスタッフとの協働を意識した個別の支援と仕組みづくり
3. 自立支援協議会を活用し、各市町の実情に即した地域づくりへの参画

図1. 相談内容内訳

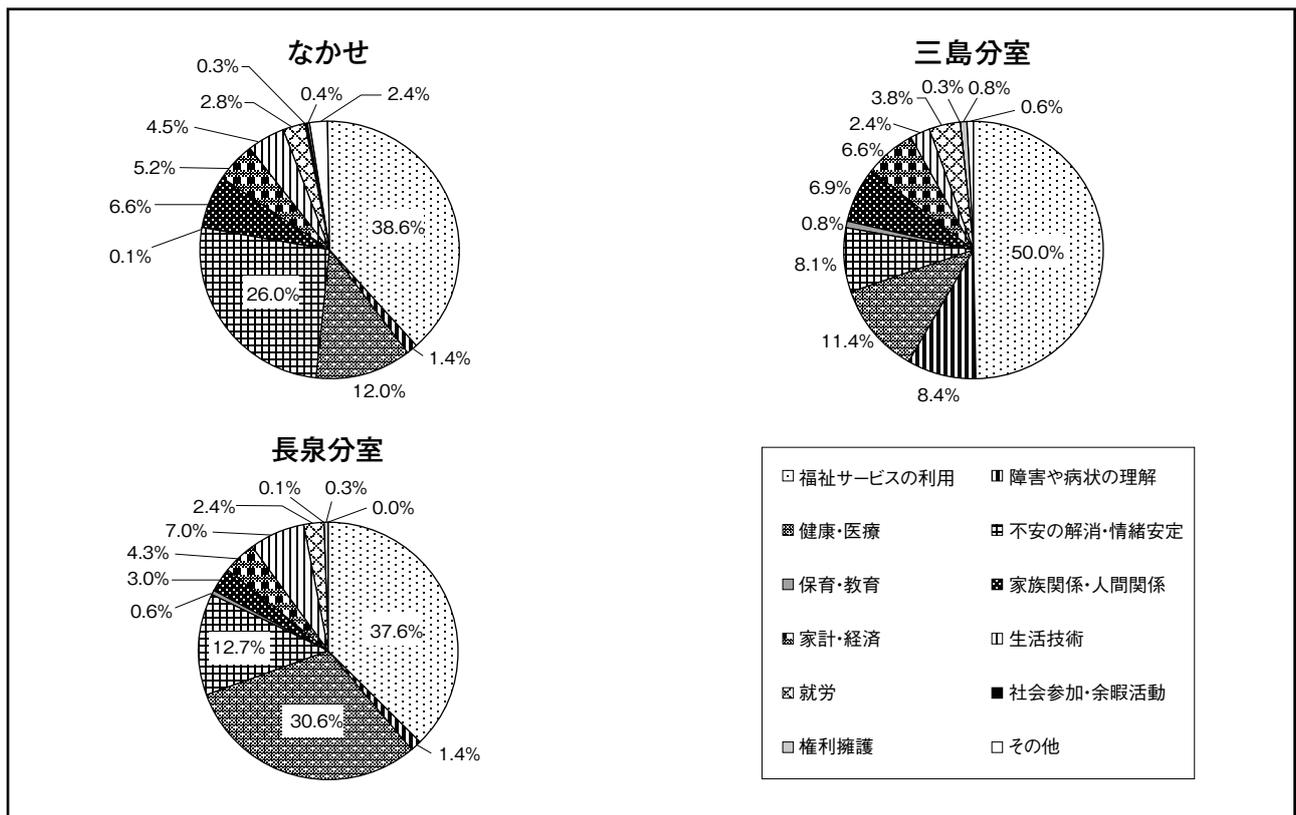
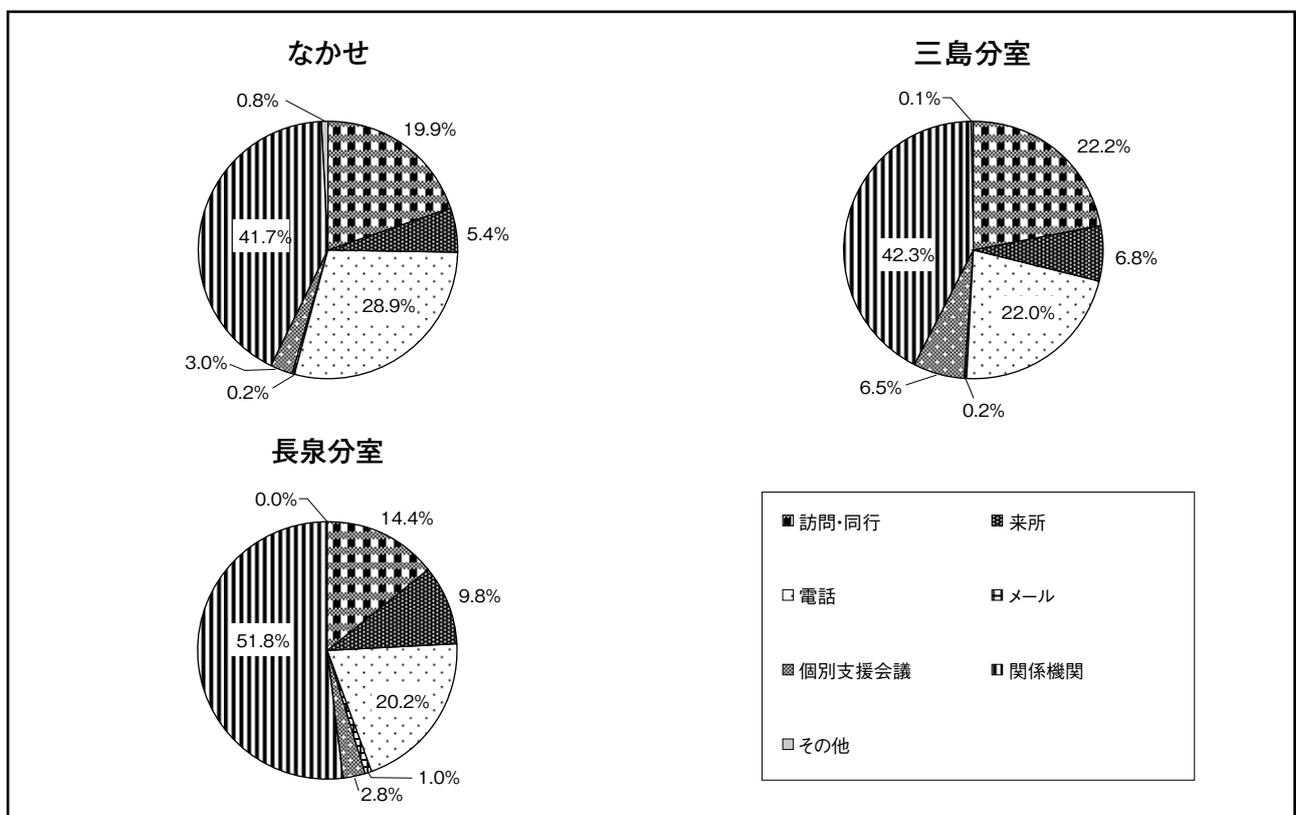


図2. 支援内容内訳



(7) サポートセンターいとう

①動 向

引き続き熱海市・伊東市より障害者総合支援法による「相談支援事業」「地域活動支援センター事業」の委託を受け活動を行った。平成29年度より熱海市に移転し3年が経過する中で、前年度に引き続き体制整備に努めてきた。物理的に離れてしまう伊東市の障がいのある方に対しても「伊東サテライト（相談・地活）」を伊東市内の公共施設にて開催し、依頼があれば個別訪問や関係者を交えての面談に参加するなどその時々状況に合わせ柔軟に対応した。その積み重ねもあり少しずつ熱海市、伊東市の障がいのある方や関係機関にも事業所の存在を認識してもらえているように感じる。

また、個別支援から見えてくる地域課題についても、自立支援協議会の枠組みを活用し関係機関と連携し方向性を検討する機会となった。各市における地域課題を協働し具体的に解決するためにも、「我が事・丸ごと」の地域づくり、包括的な支援体制の整備を認識した年でもあった。

②令和元年度目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 1. 法制度の理解を前提とした丁寧な関わりをもち、相談支援の一層の充実と個々のスキルアップを目指す | ○ |
| 2. 地域性を理解し、個別の支援体制の構築から地域づくりを意識した視点をもつ | △ |
| 3. 利用者がより主体性を持った地域活動支援センターの活用ができるように、個別の状況に合わせた働きかけを行う | △ |

③実 績

(1) 相談支援

昨年度に引き続き「福祉サービス利用」に関する相談が多く、相談支援事業所の相談員としての役割を意識し、目の前にいる対象者の思いに寄り添いながら支援する。他機関に繋ぐ際にも対象者に安心してもらえるよう連携を密にしながら情報共有するよう意識した。また、平成30年度から報酬改定された計画相談についても担当しているケースが100件以上を維持している。その内大半が就労支援事業所の利用者であることを鑑みると「就労」「日中の活動」の関心の高さがうかがえる。

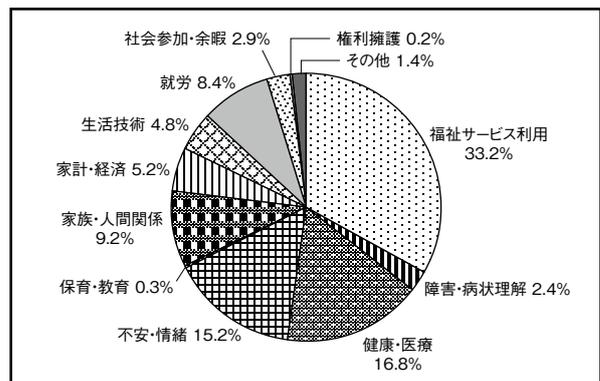
(2) 地域活動支援センター

前述の事業所移転に伴い3年が経過する中で利用人数は安定しており、利用者の中で生活の一部になっているものと考えられる。立地も熱海駅前とアクセスが良いことも背景としてあるのかもしれない。また、年度の後半から月に一度ピアスタッフが勤務するようになり、更に利用者主体を意識した「憩いの場」に変化してきていることが分かる。

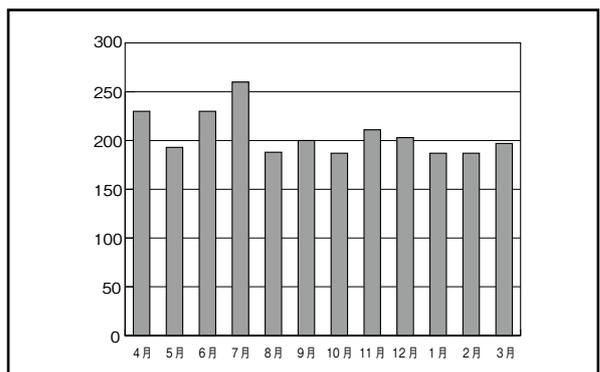
④総 括

相談支援事業、地域活動支援センター事業共に地域で暮らす障害のある方にとって必要不可欠となるためにも、今後とも制度や地域のニーズに合わせて変化し続けられるよう心掛けたい。また、多種多様な相談にも対応するため包括的な視点と繋がりを持ちながら地域に貢献していきたい。

<相談内容内訳>



<地域活動支援センター利用者数>



令和2年度目標

- | |
|--|
| 1. 当事者の声を形にできるよう自立支援協議会に積極的に関わり地域づくりや体制づくりに貢献する |
| 2. 個々の相談支援のスキルアップを図り、相談支援事業所の役割を意識しながら他機関と連携する |
| 3. 地域活動支援センターの利用を通して、利用者の生活の幅や考えが広がる機会、安心できる場を創造する |

(8) サポートセンターほっと

①動 向

昨年度に引き続き、富士市から委託を受けている「障害者等相談支援事業」と「計画相談支援」を実施。個別給付における「地域相談支援」も実施した。

②令和元年度目標及び評価

- | | |
|--|---|
| 1. 多問題を抱えるクライアントへの支援の充実
～アセスメント力、ネットワークの構築、地域診断力などのスキルアップを図る～ | ○ |
| 2. 医療機関との連携を深化し、実践を進化する
～退院の促進と地域生活の定着～ | ○ |

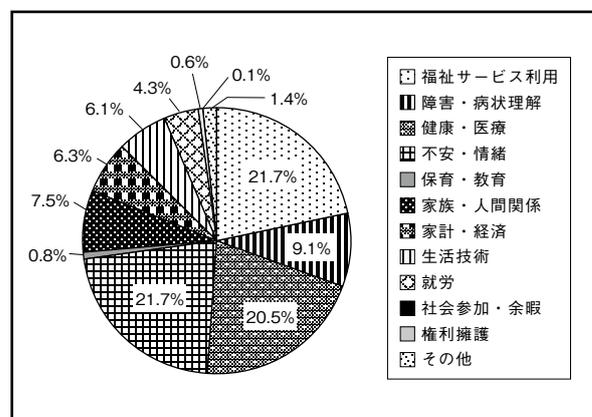
③実 績

(1) 相談支援

基本相談・計画相談ともに対応件数は増加している。昨年に引き続き地域相談支援も3件実施し、うち1件は継続中。

相談の内容は昨年同様福祉サービスの利用に関するものが多く、計画相談の依頼も多い。モニタリング期間の見直しにより実施回数が増えたことにより、利用者の状態把握やサービス調整を行うことができ、きめ細かな支援を行うことができた。その一方で、計画相談の新規依頼を受けることが困難な現状が続いている。

相談内容別



(2) 障害者自立支援協議会

富士市の自立支援協議会に参加。副会長と連絡調整部会長、事務局として携わる。会議参加はもとより、研修会の実施、イベントの運営も積極的に行った。また、来年度の就労部会の立ち上げに向けて準備会を実施した。そのことにより、支援者のスキルアップや市民への啓発活動に貢献した。

④総 括

前年度に引き続き、基本相談・計画相談・地域相談支援を実施。また、富士市と富士圏域の自立支援協議会にも参加した。家族に複数の障害者や高齢者がいる方や、核家族化の影響か家族の支援が全く得られない方が今まで以上に増えている。そのため、児童や高齢者分野の支援者との連携が必要になることも多く、それが圏域外の機関であることもあり連携等に苦慮する場面もあった。そのような状況下ではスタッフのスキルアップと関係機関やインフォーマルな資源とのさらなる連携が必要であった。援助の視点が偏らないように事業所内での情報共有、意見交換の時間を例年以上に多くとるようにした。

⑤令和2年度目標

- | |
|---|
| 1. 多問題を抱えるクライアントへの支援の充実
～事例検討を通しての共有と振り返りの機会を持つ～ |
| 2. 自立支援協議会を意識したソーシャルアクション |

4 地域貢献活動

(1) 公的機関への協力

活動内容	役職名	公的機関名	担当者
静岡県相談支援従事者初任者研修	演習講師	静岡県	牛島聖美、勝又美智子、鈴木伸二
静岡県相談支援従事者現任者研修	演習講師	静岡県	牛島聖美
静岡県サービス管理責任者基礎研修	演習講師	静岡県	牛島聖美
静岡県精神障害者雇用推進アドバイザー	アドバイザー	静岡県	勝又美智子、青木大輔、長谷川真美
熱海市障害支援区分等判定審査会	審査委員	熱海市	牛島聖美
伊豆市・伊豆の国市障害支援区分等判定審査会	審査委員	伊豆市・伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市障害支援区分認定調査	調査員	伊豆の国市	池田友美、小山千菜美
伊豆の国市障がい者計画策定会議	委員	伊豆の国市	青木大輔
沼津市障害者支援区分認定調査	調査員	沼津市	内藤治子、川口美紀
長泉町障害者支援区分認定調査	調査員	長泉町	山下圭美、新庄裕那
伊豆の国市地域自立支援協議会	協議委員	伊豆の国市	青木大輔
伊豆の国市地域自立支援協議会精神包括ケアシステム調査研究部会	部会長	伊豆の国市	青木大輔
伊豆市地域自立支援協議会	副会長	伊豆市	青木大輔
伊豆市地域自立支援協議会相談支援部会	部会長	伊豆市	池田友美
富士市障害者自立支援協議会	副会長	富士市	小山隆太、長谷川真美
富士市障害者自立支援協議会連絡調整部会	部会長	富士市	田尻ゆき
伊東市障害者支援区分認定審査会	審査委員	伊東市	鈴木伸二
熱海・伊東地区自立支援協議会精神障害部会	部会長	熱海市・伊東市	鈴木伸二、秋津崇史
熱海・伊東圏域自立支援協議会地域移行部会	部会長	熱海市・伊東市	鈴木伸二、秋津崇史
清水町障害者支援区分認定審査会	審査委員	清水町	勝又美智子
沼津市障害者自立支援協議会	副会長	沼津市	牛島聖美
沼津市障害者自立支援協議会 相談部会	部会長	沼津市	青木絵里、鈴木伸二
裾野市障害者支援区分判定審査会	審査委員	裾野市	杉山智子

(2) 学校等への講師派遣

内容	講師
沼津市立看護専門学校	青木大輔
沼津市立看護専門学校	山下圭美、山崎将展

(3) 実習委託

施設名	実習受け入れ事業所	期間	人数	担当者
伊豆市立天城湯ヶ島中学校	田方・ゆめワーク	R1.5.21~R1.5.22	8名	小山千菜美
伊豆の国市立長岡中学校(特殊学級生)	田方・ゆめワーク	R1.5.30	6名	大嶋久明
静岡福祉大学 社会福祉学部福祉心理学科 (精神保健福祉士養成課程)	就労支援事業所かのん	R1.8.19~R1.9.5	1名	渡邊修宏
独立行政法人国立病院機構静岡医療センター 附属静岡看護学校	就労支援事業所かのん	R1.5.20.~R1.9.13	75名	杉山智子
御殿場市医師会附属御殿場看護学校	就労支援事業所かのん	H31.4.9~R1.5.21	28名	杉山智子
沼津市立看護専門学校	就労支援事業所かのん	R1.11.26~R1.12.5	8名	杉山智子
沼津市立今沢中学校(2年生)	就労支援事業所かのん	R1.10.17~R1.10.18	2名	杉山智子
三島市立錦田中学校(2年生)	ワークショップまごころ	R1.11.5~R1.11.6	3名	勝又美智子
聖徳大学通信教育部心理・福祉学部社会福祉学科	ワークショップまごころ	R1.11.5~R1.11.15	1名	勝又美智子

(4) 精神保健相談

テーマ	主催・後援	回数	担当者
伊豆市サテライト相談会	伊豆市	年6回	池田友美
沼津市障害者専門相談会	沼津市社会福祉協議会	年12回	内藤治子

(5) 講演開催状況

年月日	実施場所	テーマ	主催・後援	担当者
R1.6.4	静岡総合庁舎	精神保健福祉業務基礎研修会 「当事者体験談のサポート及び相談支援事業所の活動報告」	静岡県精神保健福祉センター	畠山玲奈
R1.10.15	静岡市こころの健康センター	こころのバリアフリープロモーター 育成講座「当事者インタビュー」	静岡市こころの健康センター	山崎将展
R1.10.22	伊豆の国市役所大仁庁舎	精神の病気を持つ方の家族懇話会 ～それぞれの自立生活を目指して～	伊豆の国市自立支援協議会 伊豆の国市精神保健福祉会	青木大輔 池田友美 小山千菜美
R1.10.24	静岡県東部総合庁舎	家族のための精神保健福祉講座 「家族と本人を支える社会資源と制度」	静岡県東部健康福祉センター	山田典子

R1.11.29	静岡県東部総合庁舎	ピアサポーターフォローアップ研修 「駿東田方圏域のピアスタッフ活動状況について」	駿東田方圏域地域移行部会	石川淳 山崎将展
R1.12.3	ふれあい沼津ホスピタル	地域移行部会病院説明会 「ピアサポーターについて」	駿東田方圏域地域移行部会	石川淳 山崎将展
R1.12.6	サンウェルぬまづ	2市2町市民後見人養成講座 「精神障害者の理解と接し方」	沼津市社会福祉協議会	青木絵里
R1.12.20	金谷北地域交流センター	精神障害者ピアサポーター実践研修 「リカバリーストーリーについて」	志太榛原地域自立支援協議会	石川淳 山崎将展 大畑志保
R1.12.20	金谷北地域交流センター	精神障害者ピアサポーター実践研修 「バウンダリーについて」	志太榛原地域自立支援協議会	牛島聖美
R2.1.14	シズウェル	精神障害者地域移行定着推進研修 「リカバリーストーリー」	静岡県	石川淳
R2.2.4	下田総合庁舎	精神保健福祉業務実務研修 ピアサポート活動について	賀茂地区障害者自立支援協議会 地域移行部会	牛島聖美 石川淳 山崎将展

5 教育研修

業務管理及び研修出張

年 月 日	内 容	氏 名
H31.4.25	NPO法人こころ 視察	サポートセンターなかせ 8名 サポートセンターゆめワーク1名
R1.5.18	NPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会ブロック研修会	上柳光
R1.5.25	日本精神保健福祉士協会実習指導者講習	水野恵
R1.5.26 (計2回)	精神保健福祉士実習指導者講習会	渡邊修宏
R1.5.28	平成31年度静岡県市町審査会委員研修	勝又美智子、杉山智子
R1.6.1	成年後見制度利用促進セミナー(第2回)	長谷川真美
R1.6.18 (計5日)	静岡県相談支援従事者初任者研修	小山千菜美、古賀理恵
R1.6.21 (計12回)	栽培実習による農業の知識習得	池田千鶴
R1.6.27	伊豆の国市自立支援協議会 地域生活拠点整備に関わる視察	青木大輔、小山千菜美
R1.7.12 (計4回)	静岡県自立支援協議会地域移行部会ピアWG	山崎将展
R1.7.13	静岡県精神保健福祉士協会基幹Ⅰ・初任者研修	水野恵
R1.7.24	HACCPの考え方を取り入れた衛生講習会	古賀理恵
R1.8.6	駿東田方圏域地域移行部会研修WG	山崎将展
R1.8.12 (計4日)	障害者虐待防止・権利擁護研修	青木絵里、田尻ゆき、赤見数馬
R1.8.21	静岡県安全運転管理者講習会	青木大輔
R1.8.21 (計2日)	甲種防火管理新規講習	水野恵
R1.9.2	静岡県自立支援協議会地域移行部会・ピアWG	鈴木伸二
R1.9.17 (計3日)	令和元年度サービス管理責任者等基礎研修	水野恵、古賀理恵
R1.9.24	HACCPの考え方を取り入れた衛生講習会	飯塚千佳子
R1.9.27	ひきこもりの現状を踏まえた心理的支援	山崎将展、石川淳
R1.10.1 (計3日)	静岡県相談支援従事者現任研修	畠山玲奈、山下圭美、牛島聖美
R1.10.2~10.29 (計3日)	サービス管理責任者等基礎研修	古賀理恵
R1.10.4	駿東田方圏域地域移行部会	山崎将展、石川淳
R1.10.6	なないろの会・ほっこりピアのきずな・東部ピアサポ交流会	山下圭美、大畑志保、石川淳 山崎将展
R1.10.15	こころのバリアフリープロモーター育成講座	山崎将展
R1.10.19	日本精神保健福祉士協会基幹Ⅲ研修	水野恵
R1.10.25	地域移行定着・地域包括ケア研修	秋津崇史
R1.11.21	静岡県サービス管理責任者更新研修	青木大輔、長谷川真美、杉山智子 青木絵里
R1.11.27 (計4日)	自閉症支援講座(青年・成人期高機能コース)	畠山玲奈、岡本紀子
R1.11.29	駿東田方圏域自立支援協議会地域移行部会ピアサポーター フォローアップ研修	石川淳、山崎将展
R1.11.30	静岡県精神保健福祉士協会秋冬季研修	水野恵
R1.12.4	静岡福祉大学企業説明会	渡邊修宏
R1.12.8	地域包括ケアシステムが目指す事、実現するために必要な事	伊藤悠美子
R1.12.18	令和元年障害児・者福祉サービス事業者説明会	牛島聖美、勝又美智子、青木大輔 長谷川真美、杉山智子、鈴木伸二 水野恵、秋津崇史
R2.1.14	静岡県自立支援協議会地域移行部会精神障害者地域移行 定着推進研修	鈴木伸二、青木絵里、秋津崇史 石田由貴、山崎将展
R2.2.18	県自立支援協議会地域移行部会	長谷川真美、秋津崇史、石川淳
R2.2.22 (計2日)	精神保健福祉士実習指導者講習会	小山千菜美



公益財団法人 復康会 沼津中央病院グループ及び関連施設



沼津中央病院

(日本医療機能協会機構精神科病院3rdG: ver.1.0認定)

診療科目 精神科・心療内科

〒410-8575 静岡県沼津市中瀬町24番1号

電話 055-931-4100 (代表)

ホームページ <http://www.numazuchuo.jp/>

附属施設

* 大手町クリニック

診療科目 精神科・心療内科
〒410-0801 静岡県沼津市大手町3丁目1番地2
エイブル・コア6階
電話 055-962-7371

* あたみ中央クリニック

診療科目 精神科・心療内科
〒413-0011 静岡県熱海市田原本町9-1
熱海第一ビル2階
電話 0557-83-7707

* 訪問看護ステーションふじみ

〒411-0811 静岡県沼津市中瀬町24番1号
電話 055-931-5223

* 訪問看護ステーションふじみ ゆかわ支所

〒414-0002 静岡県伊東市湯川1丁目11番14号
今井ビル1階102号
電話 0557-32-5533

社会復帰事業部

* グループホーム コーポ狩野

定員 18名
〒410-0811 静岡県沼津市中瀬町24番1号
電話 055-933-1038

* グループホーム はまゆう寮

定員 9名
〒410-0811 静岡県沼津市中瀬町17番11号
電話 055-934-0535

* グループホーム カーサ岡の宮

定員 10名
〒410-0011 静岡県沼津市岡宮612番1号
電話 055-926-1750

* グループホーム ふじみ・ふじみⅡ

定員 ふじみ11名・ふじみⅡ5名
〒419-0201 静岡県富士市厚原1138-6号
電話 0545-32-8160

* 就労支援事業所 田方・ゆめワーク

* サポートセンターゆめワーク
〒410-2315 静岡県伊豆の国市田京1259-294
電話 0558-75-5600

* サポートセンターなかせ

〒410-0811 静岡県沼津市中瀬町17番11号
電話 055-935-5680

* サポートセンターいとう

〒413-0011 静岡県熱海市田原本町9-1
熱海第1ビル2階
電話 0557-82-5680

* サポートセンターほっと

〒417-0056 静岡県富士市日乃出町165-1
サンミック静岡ビル104号
電話 0545-32-8160

* サポートセンターひまり

〒411-0036 静岡県三島市一番町7-19
高野ビル4階
電話 055-991-1180

* 就労支援事業所 かのん

〒410-0811 静岡県沼津市中瀬町18番28号
電話 055-933-8500

* 就労支援事業所 ワークショップ まごころ

〒411-0000 静岡県三島市字エビノ木4745-456
電話 055-985-2666